

2020年11月13日

学術会議問題 総がかり行動実行委員会・全国市民アクションが新宿西口キャンペーン

学術会議に関する新宿西口キャンペーンで辻元議員があいさつ

立憲民主党HP2020年11月13日



東京・新宿駅西口において12日、市民団体によるキャンペーン「菅政権の学術会議人事介入は市民への攻撃だ！」が開催されました。野党各党の代表者があいさつし、立憲民主党からは辻元清美副代表が党を代表してマイクを握りました。

辻元議員は、冬に近づき、新型コロナウイルスの感染者が増えていることに触れ、「経済とコロナ感染防止策をどうしていくかは、命にかかわること。学者や専門家の皆さんには、政府がやろうとしていることを厳しくチェックし、政府の行き過ぎに歯止めをかける役割を果たしてもらいたい」と発言。

また、「日本学術会議の問題は、単に学者数名が排除された話ではない。学者や学問を、政府の都合のいいことしか言わない機関にしてしまうと、例えば政府が戦争に突っ込んでいくときも、みんな口を閉ざして、協力し合わない」と警鐘を鳴らしました。

さらに、「総理主催の『桜を見る会』では、政治資金規正法や公職選挙法違反のことを、安倍総理が押し通してきた。これを許していたら、社会そのものが壊れていく。菅総理も、政府が介入しないと定められている学術会議の人事に、法律を冒して介入しようとしている。そこには必ず意図がある。法治国家を守るために、市民と野党が一緒になって、国会で追及していきたい」と結びました。

しんぶん赤旗2020年11月13日(金)

人事介入 市民と野党 抗議宣伝 自由にモノ言えない社会にさせない 小池書記局長が訴え 東京・新宿



(写真) 菅政権の学術会議人事介入に対して抗議の声をあげる人たち=12日、東京・新宿駅西口

菅義偉首相による、日本学術会議への人事介入に抗議する

街頭宣伝が12日、東京・新宿駅前で行われました。各野党の国会議員や、学者などの市民が次々とマイクを握り、「自由にモノが言えない社会にさせないために、みんなで声をあげていこう」とアピールしました。

主催した総がかり行動実行委員会共同代表の高田健さんは、「自分と意見の違う人を排除した。これは、菅政権がめざす政治のあり方すべてにかかわる問題です」と訴え。同じく共同代表の小田川義和さんは、「私たち一人ひとりの自由と民主主義の問題です。任命拒否を必ず撤回させましょう」と語りました。

国際ジャーナリストの伊藤千尋さんは、国外からも厳しい批判がでてしていると紹介し、「日本をより良い方向にしていけるのは、ここにいる私たちです」と話しました。

日本共産党、立憲民主党、社民党、参院会派「沖縄の風」が参加。共産党の小池晃書記局長は、国会で菅首相はまともな説明ができなくなっていると指摘し、「説明できないなら、任命拒否を撤回するしかありません」と強調。政府の考えと違うことを発言すると弾圧される社会にさせないために、力をあわせて声をあげようと呼びかけました。

主催は、総がかり行動実行委と「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」です。

しんぶん赤旗2020年11月13日(金)

総がかり行動 野党代表があいさつ 小池氏「任命拒否撤回を」



(写真) あいさつする小池書記局長(中央)と立民の辻元副代表(右)=12日、東京・新宿駅西口

総がかり行動実行委員会、九条の会などが12日、東京・新宿駅西口で開いた集会で各野党、会派の代表があいさつしました。

日本共産党の小池晃書記局長は、菅首相が主張する任命拒否の理由が総崩れとなって、くるくる変わり、「何を聞いても『人事に関わるのでお答えは差し控える』と繰り返すばかりだ」と批判。「理由が説明できないのなら6人の任命拒否を撤回するしかない」と訴えました。

学問が弾圧された戦前の痛苦の歴史の反省に立ち、「何よりも学問は政府からの独立が大事」と指摘。再びモノが言えない社会にしないために「市民と野党の共闘の力で次の総選挙で新しい政治をつくろう」と呼びかけました。

立憲民主党の辻元清美副代表は「政府の言うことだけを聞く学者ばかりになればコロナ対策も大変なことになる」と演説。社民党の吉田忠智幹事長は「任命拒否を撤回するまでたたかいぬく」、沖縄の風の伊波洋一参院議員は「排除されたのは戦争する国づくりに反対した人たちだ」と訴えました。